

## ラテン語

ラテン語科目の学修の目安(到達のポイント)および学習動機別の効果的な履修モデルは以下のとおりです。

### (1)ラテン語学修の目安

|           | 到達のポイント  | 習得する語彙数の目安 | 資格検定などで対応するレベル |
|-----------|--|------------|----------------|
| <b>初級</b> | <p>ラテン語の基本的な文法や語彙を習得する。また日本語や英語との対照から、ラテン語ならではの表現方法に着目し、その背後にある古代ローマ人的な発想、思考、文化のありようを理解する。</p> <p>【読む】基本的な構文を用いた、あまり複雑でない内容の文章を読めるようになる。</p> <p>【書く】学習した基本的文法や語彙を用いて簡単な内容の文章を書けるようになる。</p> <p>【話す・聞く】挨拶程度ならば口頭で表現でき、聞き取れるようになる。</p>                  | 300        |                |
| <b>中級</b> | <p>初級の学習内容を補完し、文法に習熟する。原典の著作家が用いている修辞と文体の工夫に慣れ親しむ。古代ローマの文化、社会、歴史についての知識と理解を深める。</p> <p>なお、ラテン語科目では、中級と上級の授業に学習の段階的な区別は設けていない。中級と上級では異なった著作家の原典を講読するので、著作家の文体も著作内容の分野も異なる。受講生はそれぞれの興味と関心に従って、どちらかを選択することができる。</p> <p>【読む】辞書を用いて、原典の文章を読解できるようになる。</p> | 600 以上     |                |
| <b>上級</b> | <p>初級の学習内容を補完し、文法に習熟する。原典の著作家が用いている修辞と文体の工夫に慣れ親しむ。古代ローマの文化、社会、歴史についての知識と理解を深める。</p> <p>なお、ラテン語科目では、中級と上級の授業に学習の段階的な区別は設けていない。中級と上級では、異なった著作家の原典を講読するので、著作家の文体も内容の分野も異なる。受講生はそれぞれの興味と関心に従って、どちらかを選択することができる。</p> <p>【読む】辞書を用いて、原典の文章を読解できるようになる。</p>  | 600 以上     |                |

### (2)ラテン語履修案内

|           |  |
|-----------|--|
| 学習動機      | 大学院進学も視野に入れ、専門的研究でラテン語を活用したい。  |
| 効果的な履修モデル | <p>【1年次】ラテン語初級Ⅰ、初級Ⅱを通年で履修。</p> <p>【2年次】ラテン語中級Ⅰ、Ⅱあるいは上級Ⅰ、Ⅱを通年で履修。</p> <p>【3年次、4年次】ラテン語中級Ⅰ、Ⅱあるいは上級Ⅰ、Ⅱを通年で履修。</p> |
| 学習動機      | 将来ラテン語を専門的に用いるかどうかは分からないが、大変興味があり、教養の基盤としても、ラテン語の基礎をしっかりと身につけておきたい。  |
| 効果的な履修モデル | <p>【1年次】ラテン語初級Ⅰ、初級Ⅱを通年で履修。</p> <p>【2年次】ラテン語中級Ⅰ、Ⅱあるいは上級Ⅰ、Ⅱを通年で履修。</p>   |

|           |  |
|-----------|--|
| 学習動機      | ラテン語を専門的に用いることはないが、ラテン語がどのような言葉であるかを理解して、西洋文化とその歴史への関心を高めたい。 |
| 効果的な履修モデル | 【1年次】ラテン語初級Ⅰを春夏学期に履修。興味をもてたら、初級Ⅱを続けて履修。                      |